

有権者の私たちに今できること

日之影町 春田 奈緒

私自身が18歳になったときに成人年齢が引き下げられ、高校三年生のときに初めて選挙に行きました。学校で、選挙の仕組みや流れなどを勉強したので、自信を持って選挙に行こうと思っていました。しかし、実際に行ってみると選挙の独特な空気感に圧倒され、一緒に行った母の後ろに習っていくことで精一杯でした。

18歳成人になると決まってから、学校では選挙の話が今まで以上にされるようになりました。選挙権を学生のうちからもつことに関してより現実的に考えるようにした結果だと私は思います。また、いまの政治についてどう思うか、これから先どんな改革があったらいいと思うかなど、公民の時間などを通して考える時間が多く与えられました。先生方はよく、「選挙に行くことで、自分の望む生活に近づいていく」とおっしゃっていました。選挙に行くことは、自分の意見を表明することに繋がるからです。高齢者への制度がより充実しているのは、選挙に行く人が若者より高齢者の方が多いからだとおっしゃっていました。

学校での授業では、選挙の仕組みや政党の仕組み、選挙の歴史を学んだり、世界各国との選挙の違い学んだりしました。確かに仕組みをしっかりと理解して、選挙に臨むことは必要なのでしょう。しかし、授業によって選挙に興味を持った人は少ないということが現状です。

「ていうかさ、誰に投票しても正直変わらんくない？」

「わざわざ、外出してまで行く必要ある？」

そんな声が、周りから聞こえてきました。

実際に高校三年生での授業の後の選挙に行った人は少なかったです。

なぜ、若者の選挙率は上がらないのでしょうか。

学校で模擬選挙や生徒会選挙などを通して実際の選挙を体験しました。学校内の選挙では、立候補している生徒や架空の組織などの情報が簡単に手に入りますし、強制的に選挙に参加させられるため、必然的に投票率は上がります。しかし、実際の選挙になってみると選挙会場が一体どこなのか、どの政党からどんな人が立候補していて、ど

んな理念を掲げているのかを知ることが出来ない人も多くいます。

私は、有権者全員に、選挙に関して興味を持ってもらい、選挙に関して調べてもらうようにするためには、選挙が私たちの生活にどのような変化をもたらすのかということを知ってもらうことが大切なのではないかと思います。学生時代に、選挙の仕組みをしっかりと勉強するだけではなく、選挙行くことによっての利点や影響力のことまでしっかりと学ぶことが、これからの投票率に関わってくるのではないのでしょうか。特定の政党や政治家のことを学校内で教えることはできませんが、選挙は、自分の意思を表明するための一つの手段であることや、これから日本でよりよく暮らしていくために必要なことだ、ということ教えることは出来ると思います。また、政治についての調べ学習を増やしたり、外部講師による講義や模擬選挙を通して、政治への関心を高めることも必要だと思います。

自分たちの生活は自分たちで決める、これからの日本を自分たちで変えていくというような気持ちで選挙に臨むことが必要だと思います。この気持ちをもって若者達の選挙を進めていくためには、既に有権者となっている大人、つまり親や保護者の力も必要です。例えば、選挙に行くために車が必要な場合は、送迎の協力が必要です。また、親や保護者が選挙に行く姿勢を見せることや、家族で食事などをする時に選挙のことを話したりすることも若者の投票率を上げることに繋がると思います。

学校・家庭・社会全体を通して、一人ひとりが自分たちに出来ることは何か、さらによりよくするためには、どうしたらいいのかを考え、行動していくことが、これからもっと必要になっていきます。日本を明るくし、支えていくためにも、政治や選挙についてもっと知って、有権者全員で政治に参加していくことが大切だと思います。